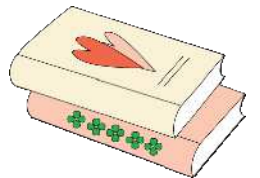
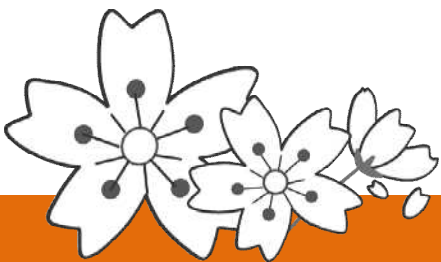




第3次 津山市子ども読書活動推進計画(案)

心 は く む

~ つやまっ子読書プラン ~



平成26年3月
津山市教育委員会

目 次

第1章 はじめに	1
第2章 第3次計画策定にあたっての考え方	2
1 子どもの読書活動 ―意義と重要性―	2
(1) 子どもの読書の重要性	2
(2) 大人からの支援の必要性	2
2 第2次計画に基づいた取り組みの主な成果と課題	3
(1) 官民協働（パートナーシップ）による子どもの読書活動の推進	3
(2) 学校における子どもの読書活動の推進	3
(3) 市立図書館を中心とした子どもの読書活動の推進	4
(4) 子どもの読書活動の推進に関する啓発	5
第3章 基本方針・重点プロジェクト	6
基本方針1 家庭教育への支援及び地域との協働による読書活動の推進	6
基本方針2 市立図書館の機能を活かした子どもの読書活動推進	7
基本方針3 学校における子どもの読書活動推進	7
基本方針4 子どもの読書活動の推進に関する啓発推進	8
第4章 子どもの読書活動推進のための方策	9
1 家庭における子どもの読書活動推進	9
2 地域における子どもの読書活動推進	10
3 市立図書館における子どもの読書活動推進	11
(1) 市立図書館の取り組み	11
(2) 施設環境の整備と関係機関との連携	12
4 学校等における子どもの読書活動推進	13
(1) 学校等の取り組み	13
(2) 施設環境の充実と工夫	14
第5章 子どもの読書活動推進体制及び広報啓発等	15
1 協働による子どもの読書活動推進体制	15
2 広報啓発等	15
(1) 子どもの読書活動の推進に関する啓発	15
(2) 各種情報の収集・提供	16
第6章 おわりに	16

第1章 はじめに

2020年、夏季オリンピックの東京開催が決定しました。数々の困難が予想された中、日本がオリンピック招致を勝ち取ることができたのは、個人的なストーリーを披露しつつも、簡潔でわかりやすい、人の心をつかむような情熱的なプレゼンテーションが大きく貢献したと言われています。このことが示すように、自らの思いを能動的に発信する力を養うことは、未来を切り開き、進む道を広げてくれます。

近年、子どもを取り巻く社会環境は、核家族化、少子化、地域のつながりの希薄化などに加え、携帯電話やスマートフォン、インターネットの普及等による情報化も進んでいます。便利さが増した一方で、子どもたちの読書離れや活字離れ、幼児期からの読書習慣の未形成、また、表現力や創造力の欠如などのコミュニケーション能力の低下といった問題も出てきています。

読書は、子どもが健やかに成長していくための心に栄養を与えてくれます。本を読むことで、子どもは感受性を豊かにし、言語能力、想像力、読解力、表現力、論理的な思考力といったコミュニケーション能力を身に付けていきます。子どもが変化の激しい現代社会を乗り越え、社会に生きる人間として成長するためには、幼少期からの読書を通じて、表現力や想像力といったコミュニケーション能力を高めることが必要です。

平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行されたことを契機に、津山市でも平成16年に「津山市子ども読書活動推進計画～つやまっ子読書プラン～」(第1次計画)を、平成21年に同第2次計画を策定しました。さらに、平成24年に策定した「津山市教育振興基本計画」でも、子どもの読書活動を家庭教育に位置づけ、推進してきました。

そしてこの度、学校、家庭、地域が連携し、子どもの周りにいつも身近に本があるような読書環境を整え、さらに、家庭教育支援にもつながるような子どもの読書活動推進を目指して、平成26年度～30年度を実施期間とする「第3次津山市子ども読書推進計画～つやまっ子読書プラン～」(第3次計画)を新たに策定しました。

【 各章の成り立ちと関連 】

第3次計画策定にあたっての考え方(第2章)

子どもの読書活動の意義と重要性、そして平成21年度から25年度まで取り組んできた第2次計画の基本方針・重点プロジェクトをもとに成果と課題をまとめています。

基本方針・重点プロジェクト(第3章)

めざすべきビジョンを掲げ、基本方針・重点プロジェクトを示しています。

子どもの読書活動推進のための方策(第4章)

ビジョンに基づく基本方針・重点プロジェクトを実現するために、それぞれの場所(家庭・地域・市立図書館・学校等)で行うべき方策を示しています。

子どもの読書活動推進体制

及び広報啓発等(第5章)

基本方針・重点プロジェクトを実現するための全体の推進体制、そして広報啓発の方策について示しています。

子どもの読書活動

子ども(おおむね18歳以下の者をいう)が本を読むことはもちろん、絵本を見たり物語を聴いたり、読書会に参加したり、読書感想文を書いたりするなど子ども自身が読書に関わりを持つ活動のこと。

第2章 第3次計画策定にあたっての考え方

第2次計画の策定から5年が経過し、書籍や情報のデジタル化が急激に進行し、携帯電話やインターネット、コンピューターゲームなどのメディアはますます発達してきました。その一方で、幼児期から携帯電話の映像やゲームを利用して子育てをする保護者の割合も増えるなど、子どもの読書活動を取り巻く状況が少しずつ変化してきました。こういった環境の中、第2次計画に基づいてそれぞれの分野で様々な取り組みを展開し、一定の成果も見られました。しかし、アンケートの結果では、読書に積極的に取り組む子どもと、興味がない子どもの二極化が進んでいる状況もうかがえ、読書の意義を再度考える必要があります。

この度、第3次計画を策定するにあたり、子どもを取り巻く背景やアンケート結果などを踏まえ、第2次計画の取り組みの成果と課題を整理します。

1 子どもの読書活動 - 意義と重要性 -

(1) 子どもの読書の重要性

子どものときに聞かせてもらった物語や読んでもらった本の記憶は、大人になっても心鮮やかに残っているものです。特に、家庭での幼いときの読み聞かせは、子どもが物語の世界を楽しむばかりでなく、本を好きになるきっかけとなります。子どもは、読書を通じて、言葉を学び、感性を磨き、想像力を豊かにし、コミュニケーション能力を高めていきます。また、人のぬくもりや安心感を得ることにより、親子の絆を深め、家庭教育を高めることにもつながります。そういう意味で、子どもの頃に本にふれることは、人間として成長する大きな要素と言えます。

(2) 大人からの支援の必要性

子どもは、幼い時の読み聞かせなどにより、本に興味・関心を持ちだすと、自分から本に触れようとします。また、子どもが読書をする中で、自分の心をとらえる一冊の本に出会う経験は、人間としての成長にも大きくつながるものです。

しかし、たくさんの本の中から、自分が求めている知識を与えてくれる本や、感動を通じて将来に渡って自分の支えとなるような本に出会うことは容易ではありません。

そこで、子どもが求めている本との出会いを手助けする、身近な大人の存在が必要です。

津山市でも、小学校5年生対象のアンケート結果の中で、多くの児童が「読みたい本がない」と答えしており、自分が求めている本と出会えていない子どもが多いことがうかがえます。家庭だけでなく、学校や地域などもお互いに協力して、子どもの読書習慣や本に触れる環境を支援し、未来を担う子どもたちが豊かな読書活動を通して健やかに育つよう、大人が読書活動を支援することが大切です。

2 第2次計画に基づいた取り組みの主な成果と課題

第2次計画においては、官民協働（パートナーシップ）や市立図書館による子どもの読書活動推進をはじめとする基本方針や重点プロジェクトを定め、各機関は連携して取り組んできました。ここでは第2次計画に基づいた取り組みを振り返り、アンケートなども参考に主な成果と課題を整理します。

（１）官民協働（パートナーシップ）による子どもの読書活動の推進

【 成 果 】

- ・読書ボランティアの協力を得ている小学校が21校から26校に増えた(全28校)。
- ・市民に広く呼びかけて良書の推薦を募り、「つやまっ子に贈る100冊の本」の作成や、「つやまっ子に読ませたい本の絵手紙展」を開催し、良書の啓発を行った。
- ・図書館司書、こども課・健康増進課職員と読み聞かせボランティアが連携して実施しているブックスタートが保護者の間に浸透してきた。(アンケート結果年長問19・20)
- ・読み聞かせボランティア研修会を開催して、スキルアップを図るとともにボランティアグループ間での交流を深め、学び合い、情報交換の場となった。
- ・ファジアーノ岡山や岡山湯郷Belleと協働し、選手監督のおすすめブックリストを作成した。

課 題

- ・家庭では、大人においても読書離れが進んでおり、家庭に本が身近な存在としてあることが難しくなっている。読書環境を充実させるためには、家庭や学校に加え、地域で読み聞かせ等を含む家庭教育支援にもつながる読書活動の推進が求められている。

(アンケート結果年長問3・21)

（２）学校における子どもの読書活動の推進

【 成 果 】

- ・新学習指導要領においても「読むこと」や「書くこと」等の言語活動がより重視され、学校教育活動の中での読書活動の推進に対する意識が高くなってきた。
- ・学校独自の読書週間の設定や、生活リズム向上につながる「チャレンジ・ハッピーデー¹」など、家庭と連携した読書活動が推進できた。
- ・市内全小中学校では、学校司書や地域ボランティアによる読み聞かせや、朝読書の時間の充実も見られる。
- ・学校司書や図書整理員、教職員間での共通理解を図るための研修会や勉強会を独自に開催している学校も見受けられる。

¹ チャレンジ・ハッピーデー

ゲームやテレビなどに使っている時間を見直して、家庭での望ましい過ごし方、メディアコントロールについて、家族で考えるきっかけとする教育委員会で行っている運動。

課 題

- ・授業と読書との有機的な関連や、市立図書館・学校図書館を利用した授業展開などへの取組を進めることで読書活動のさらなる保障を進めていくことが必要である。
- ・市立図書館との連携を深めて、子どもの読書離れを防ぎ、読書活動の幅を広げることが求められている。

(3) 市立図書館を中心とした子どもの読書活動の推進

【 成 果 】

- ・新刊図書や長く読み継がれている図書、調べ学習のための図書等、児童書の収集・提供を継続的に実施した。

【全館児童書冊数は5年間で19,163冊増の137,107冊】(全蔵書冊423,189冊の約32%)

- ・赤ちゃんから小学生までを対象としたえほんの時間やおはなし会等の子ども向け行事を定期的

【定例行事数は5年間で6件から10件に増】

- ・実施した。
- ・保育所(園)、幼稚園、学校、公民館、児童館など関係機関等に対して、資料提供や出前おはなし会などを実施した。また、図書館見学などの要望に積極的に対応した。
- ・乳幼児向けの絵本や育児書などを集め、親子がくつろぎながら本を囲む時間を楽しめる環境作りのため、子育て支援コーナーを新設した。
- ・動植物や科学・恐竜などの本を集めたしぜんコーナーを設け、子どもがくつろぎながら調べたり、発見することのできる環境作りを行った。
- ・市内28校中24校の小学校に自動車文庫が巡回し、本の貸出を行った。【5年間で2校増加】
- ・ファジアーノ岡山や岡山湯郷Belleの選手・監督のおすすめブックリストを、市内小学生等に配布し、読書の楽しさを知るきっかけ作りとした。

課 題

- ・図書館が行っている子ども向けサービスでは、読み聞かせ以外の認知度が低いいためPRが課題である(アンケート小5問20,21,年長問18より)。
- ・幼稚園や小学校などからの長期貸出要求が重複する場合があります、十分な資料整備が必要である。
- ・今後も市内全域の子どもが図書館サービスを利用しやすい環境を整えていくことが課題である(アンケート小5問18,19,年長問9,16,17より)。
- ・小学校高学年から高校生の図書館利用が減少傾向にある。学校等と連携・協力しながら子どもの読書活動推進に役立つ環境を作っていく必要がある。

(4) 子どもの読書活動の推進に関する啓発

【 成 果 】

- ・「つやまっ子に贈る 100 冊の本(市民より公募)」リストを作成し、学校や図書館等にリーフレットを配布したり、家庭教育手帳津山市版に掲載し、良書の啓発に努めた。
- ・子ども読書キャラクター「ぶっくちゃん」(ネーミングは小学生から公募)を作成し、イベントやグッズに活用し、子どもへの浸透を図った。
- ・教科書音読コンテストや親子論語教室(9 回)を開催し、読む力を育んだ。また、つやまっ子 WBC 杯¹(3 回)を開催し、学校と家庭の両方で積極的に読書に親しむ機会を提供した。【音読大会は、計 14 回】
- ・「広報つやま」にて毎月図書館カレンダーの掲載や、図書館で行われる行事の啓発に努め、「つやまっ子に贈る 100 冊の本」推薦コーナーを新設し、啓発に努めた。
- ・「こどもの読書週間²」、「子ども読書の日³」は、子ども読書パネル展や親子音読大会、おはなし会(図書館)等を開催した。また、期間中に、フェイスブックを活用し、100 冊の本の啓発活動を行った。
- ・「秋の読書週間⁴」にあわせて、「つやまっ子に読ませたい本の絵手紙展」や絵てがみ教室、講演会を開催し、読書活動の啓発を行った。

課 題

- ・携帯電話やゲーム、インターネット等のメディアを好む傾向が強まり、子どもだけでなく保護者もじっくり本と向き合う時間が減少し、読書への関心が低下している。子どもの生活習慣を見直すとともに、読書の良さや大切さを啓発する活動の重要性が増している。(アンケート年少問 3/小 5 問 8・14 より)

第 2 次津山市子ども読書活動推進計画で実行した 3 つの取り組み

「1 日 15 分間読書」

【数値目標】

1 週間の読書時間(小 5)

1 時間未満 39%(H20) → 10%未満(H25)

【取り組み結果】

市内小学校では、ほぼ全校で朝読書、読み聞かせを実施。

・アンケート結果(H25)

1 時間未満 35.8% (-3.2 ポイント)

「つやまっ子に贈る 100 冊の本」

【ビジョン達成のために】

本との出会い・きっかけづくりを推進

【取り組み結果】

市民に呼びかけ「つやまっ子に贈る 100 冊の本」リストを作成。リーフレットや家庭教育手帳に印刷、広報紙やフェイスブックへの掲載など良書の啓発に活用。

「津山みんなの課題図書」

【5 年後の数値目標】

読んだ本のお話を家族とする(小 5)

63%(H20) → 75%(H25)

【取り組み結果】

「つやまっ子に贈る 100 冊の本」から、課題図書を選定し、音読大会等を実施。

・アンケート結果(H25)

62.1% (-0.9 ポイント)

¹ つやまっ子 WBC 杯

指定の期間中、学校のクラス単位で、どれだけ本を読むことができたのかを競う。

² WBC 杯は「わたし(Watashi)も Book に Challenge するで!」の略称。

³ こどもの読書週間

4 月 23 日～5 月 12 日の約 3 週間。こどもの読書に関する啓発活動を推進している。

⁴ 子ども読書の日(4 月 23 日)

子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために文部科学省が制定したもの。

⁵ 秋の読書週間

10 月 27 日～11 月 9 日の 2 週間。読書活動の啓発活動を推進している。

第3章 基本方針・重点プロジェクト

子どもの自主的な読書活動を推進するために、第3次計画では以下のビジョンを掲げ、その実現のための基本方針と重点プロジェクトを定めます。

【 第3次計画に掲げるビジョン 】

- ・一人でも多くのつやまっ子が本と仲良くなるように、本との出会い・きっかけづくりを推進します
- ・子どもの読書活動推進のため、家庭、学校、地域等の連携を進め、よりよい読書環境づくりに努めます

このビジョンを実現するため、津山市は、4つの基本方針と重点プロジェクトを以下のように定め、取り組んでいきます。

基本方針1 家庭教育への支援及び地域との協働による読書活動の推進

子どもが本を好きになるきっかけは、一番身近な家庭での読み聞かせから始まるといってもいいでしょう。家庭の中で保護者が子どもと本を通じてふれあうことは、お互いに愛情を深める大切な時間となるばかりでなく、将来、子どもが成長し自立するために必要な思考力や判断力、コミュニケーション能力などを身に付けるきっかけへとつながっていきます。そこで、家庭の中で本を通じて子どもとふれあう時間の大切さについて保護者への理解を深め、家庭教育の充実を図ります。

また、読書活動を通じた子どもの健全育成を進めるため、「60・15 キャンペーン」の推進などともあわせ、読書の意義と重要性について、津山市全体に広め、地域の協働による読書活動の推進体制づくりを進めます。

重点プロジェクト

- ・保護者に、読書の意義と重要性について、意識を高める取り組みを進め、家庭教育力の向上に繋がります。
- ・読み聞かせを支援するための「つやまっ子に贈る絵本リスト」の配布や、読み聞かせのための講習会の開催、ブックスタートなどの充実を図ります。
- ・読書に係るボランティアや団体などの把握及び情報提供に努め、地域をあげた子どもの読書活動の体制づくりを進めます。
- ・地域による読書支援活動が広がるよう、ボランティア養成のための研修会を開催します。

60・15 キャンペーン
60分早く寝て、15分の早起きをして朝ごはんを食べようという、教育委員会で取り組んでいる生活改善運動。

基本方針 2 市立図書館の機能を活かした子どもの読書活動推進

市立図書館は、子どもが読書の喜びと魅力を発見できるように、児童図書 of 整備や読み聞かせを行い、子どもと本との出会いを進めます。また、保育所（園）・幼稚園・学校・公民館・児童館など関係機関等と協力・連携しながら、読書活動の推進に取り組みます。

重点プロジェクト

- ・児童図書や自動車文庫巡回の拡大など、施設環境の整備に努めます。
- ・図書館の役割と読書の楽しさや必要性を啓発するための講演会や講座を開催します。
- ・子どもの居場所づくりや読書推進につながるような学校や公民館等が行う読書活動を支援します。
- ・郷土にちなんだ資料の紹介や展示などを行います。
- ・保育所（園）、幼稚園、学校や公民館などでの子どもの読書活動や学習活動が進むよう、ニーズに応じた支援を充実します。

基本方針 3 学校等における子どもの読書活動推進

保育所（園）や幼稚園、学校等での読み聞かせや、保護者向けの本の貸し出し等により、子どもが本に触れるきっかけづくりや家庭内での読み聞かせの充実を図ります。

また、読書活動を「チャレンジ・ハッピーデー」や「げんぼプロジェクト」¹等とあわせて推進し、子どもの読書活動の定着とともに、学力や生活リズム向上にもつなげます。

そして、これらをより進めるために、保育所（園）・幼稚園等の職員及び、学校に配置されている学校司書（または図書整理員）、司書教諭等は、市立図書館と連携し、所（園）・校内の読書環境や図書資料などの充実を図ります。

重点プロジェクト

- ・朝読書や読み聞かせ、ストーリーテリング²、ブックトーク³等を取り入れ、子どもの読書に関する意識の高揚を図ります。
- ・子どもが本を活用して学習活動を展開しやすいよう、市立図書館と連携し学校図書館の図書資料を計画的に整備します。
- ・ボランティアによる読み聞かせやストーリーテリングなど、地域と連携した子どもの読書活動を推進します。
- ・「チャレンジ・ハッピーデー」や「げんぼプロジェクト」を読書活動と組み合わせて推進します。
- ・子どもの読書活動が進むよう、教職員等の指導者を対象とした研修会を開催します。

¹げんぼプロジェクト

学校・家庭・地域、それぞれの教育力の向上を実現するために展開する様々な施策の総称。家庭での学習が充実し、毎日きちんと宿題をすることができつやまっ子を育てていくことを目指すもの。

²ストーリーテリング

話し手が、お話しや物語を覚えて、本無しに聞き手に語って聞かせること。

³ブックトーク

一定のテーマを立て、何冊かの本の魅力や面白さを聞き手に紹介すること。

基本方針 4 子どもの読書活動の推進に関する啓発推進

子どもの読書活動の充実のためには、乳幼児期から子どもの周囲に本がある環境づくりと読書を支援する周囲の大人の存在が必要です。そこで適切な機会をとらえ、読書活動に対する子どもたちへの興味付けと併せ、子どもの読書活動の意義や重要性について大人への啓発を積極的に進めます。

その中では、子どもにとって最も身近な家庭で読み聞かせを行うことの重要性とともに、読み聞かせ本の紹介などを通じて保護者への啓発と支援を行います。さらに、それぞれの子どもの発達段階に応じた適切な読書活動を進めるため、地域をあげて大人自らが読書に親しむ雰囲気づくりと、子どもを支援する体制づくりに果たす読書ボランティアの重要性などについても、地域の人々に理解と関心を深めてもらえるよう啓発に努めます。

重点プロジェクト

- ・子どもの読書活動を地域全体で支援する必要性を啓発します。
- ・「広報つやま」やホームページ、ソーシャルメディア等を通じて、子ども読書活動推進関連事業をPRします。
- ・「こどもの読書週間」や「子ども読書の日」、またその行事についてPRし、子どもの読書活動の重要性を啓発します。
- ・保育所(園)、幼稚園、学校、公民館等でのボランティアによる読書活動支援の有効性と重要性について広め、地域をあげた読書活動が進むよう啓発します。
- ・「生涯学習人材バンク」への読書に係るボランティア等の登録と情報発信に努めます。

第4章 子どもの読書活動推進のための方策

第4章では、第3章で示したビジョンや基本方針、重点プロジェクトに従い、家庭・地域・市立図書館・学校等それぞれの機関・場所において行うべき子どもの読書活動推進のための施策の方向を示します。

1 家庭における子どもの読書活動推進

子どもの読書活動は、家庭の中での言葉かけや体験から始まります。読書が日常の生活の中に位置づけられ習慣として定着するためには、もっとも身近な家族、保護者が積極的に子どもと関わっていくことが重要です。

保護者自身が読書活動の重要性の理解を深めるとともに、乳幼児期から親子がふれあいながら読み聞かせや読書を楽しむことが読書活動につながることを、親になる早い段階から啓発していくことが大切です。

更に、子どもが日常生活の中で自然に読書に親しむために、ゲームや携帯電話など様々なメディアとの付き合い方を見直し、基本的生活習慣を整えるなど読書活動推進につながる家庭での環境づくりの支援を推進していきます。

施策の方向

保護者に対する読書の重要性の啓発

- ・教育委員会と子育て関係部門等が連携して、子どもから大人まで生涯を通じた読書活動を推進します。
- ・子どもが思春期までに自主的な読書の習慣を身につける重要性について、（親学講座やワークショップ研修等により）理解を促します。
- ・親子で参加する事業（音読大会や論語教室）を開催し、読書活動への理解を促進します。

読書活動につながる家庭教育の支援

- ・妊婦や乳幼児期の子を持つ親に対し、読み聞かせや読書の大切さを啓発し、本にふれる機会を設けるブックスタート事業を実施します。
- ・つやまっ子に贈る絵本を市民から募集し、家族のふれあいを深めることのできる「つやまっ子に贈る絵本リスト」などの取り組みを推進します。
- ・基本的生活習慣や家庭での時間の使い方を振り返る機会の提供や事業を推進します。
- ・幼児をもつ家庭に対して家族のふれあいを促進する事業を推進します。

2 地域における子どもの読書活動推進

現在、保育所(園)、幼稚園、学校や公民館、児童館、放課後子ども教室¹、放課後児童クラブ²などでは、ボランティアや保護者などによる読み聞かせやストーリーテリング、紙芝居などが積極的に行われ、読書を通じた地域のふれあいが進んでいます。

今後、家庭での読書活動推進と併せ、地域をあげて子どもが本とふれあうことのできる体制づくりをより進めるため、地域の拠点施設での読書ボランティアの積極的な活用や、地域の協力による読書活動をより進めます。

施策の方向

子どもの居場所づくりと読書活動の推進

- ・児童館、放課後子ども教室、放課後児童クラブ、親子クラブ、PTA など、地域のボランティアや保護者などと協力し、子どもの読書活動を推進します。

公民館における子どもの読書活動の推進

- ・地域のボランティアなどの協力を得ながら、読み聞かせなどの子どもが読書活動に親しむことのできる活動を推進します。
- ・子どもが本に親しみを持ち、読書習慣が身につくような講座の開催や、学校や地域で行う音読大会を支援します。
- ・市立図書館による貸出等を活用し、図書資料の充実と利用を促進します。

民間団体等に対する支援

- ・子どもの読書活動の推進に携わる民間団体等を把握し、「生涯学習人材バンク」活用など、子どもの読書活動関連情報の提供を図ります。
- ・子どもの読書活動の推進に係る民間団体等に対してボランティア交流会や研修を実施し、子どもの読書活動の活性化を図ります。

¹放課後子ども教室

放課後の児童の居場所づくりとして、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化活動等の取り組みを推進している。

²放課後児童クラブ

主に、小学校低学年で放課後帰宅しても保護者がいない児童を対象として、授業終了後や長期休み中に安全な生活や遊びの場を与えて児童の健全な育成を図ることを目的として設置。

3 市立図書館における子どもの読書活動推進

(1) 市立図書館の取り組み

子どもにとって図書館は、魅力ある本と出会うことができる場所であり、豊富な図書の中から興味のあることを自分で学ぶことができる場所です。また、図書館ではボランティアの協力を得ながら、本の紹介や読み聞かせなどを実施して子どもの読書活動の推進を図っています。

今後も子どもの読書活動や学習を推進していく拠点として、児童図書の充実や本との出会いづくりを工夫し、魅力ある図書館をめざします。

施策の方向

本との出会い・きっかけづくりの推進

- ・おはなし会、読み聞かせなど魅力的な子ども向け行事や、大人も一緒に楽しめる行事を開催して読書のきっかけづくりに努めます。
- ・本の紹介・案内などを配布し、特集コーナー・特別展示など、本との出会いづくりを推進します。
- ・一日図書館員など職場体験を通じて、図書館や本に対する興味・関心を喚起します。

子どもの読書活動の支援

- ・来館する子どもに資料の提供や本の紹介などを行い、子どもの読書と学習活動を支援します。
- ・郷土の理解を深めるために、資料の収集・紹介に努め、郷土にちなんださまざまなテーマで展示や行事などを企画します。
- ・選書や読み聞かせのスキルアップ講座など、子どもの読書活動を支援する人のための講座を開催します。
- ・保育所(園)、幼稚園、学校や公民館、児童館、地域の団体等が積極的に読書活動を推進できるよう、支援を充実します。

(2) 施設環境の整備と関係機関との連携

市立図書館では、子どもが魅力ある本と出会える場所となるよう、蔵書の約32%を児童書として整備しています。また、子どもが本に親しみやすいよう、読み聞かせの会や読書に関する行事なども行っています。

しかし、アンケートによると年長児童の約29%は図書館を利用したことがなく、さらに年長児童と小学校5年生の「本に興味がない」という回答が前回調査よりも増加しています。

そこで、子ども達が本に親しみ、読書を通じた健全な育成ができるよう、読書の重要性について大人に理解してもらうよう啓発と読書活動の支援に努めていきます。また、保育所(園)・幼稚園・学校などとの連携をさらに進め、必要な資料や情報の提供を通じた支援を行う他、自動車文庫の巡回拡大やインターネットによる蔵書検索・予約など、時代に即した図書館サービスの提供に努めます。

さらに、高等学校や高等専門学校、大学、病院などの地域の機関と連携した専門的な講演会の開催など、図書館機能を活かした活動も展開します。

施策の方向

施設環境の整備

- ・ 子どもや親子が安心して快適に過ごすことができる読書環境づくりに努めます。
- ・ 児童図書の収集・提供の充実を図ります。
- ・ インターネットを通じて、資料検索・予約等のサービスを向上させるとともに、読書・学習情報の発信を行います。

関係機関との連携

- ・ 自動車文庫の巡回箇所を増やし、図書貸し出しのサービスを充実します。
- ・ 地域での読書活動をより推進するため、学校や公民館・児童館等との連携を進め、読書に関する行事などの開催を支援します。
- ・ 保育所(園)・幼稚園・学校等での保育や授業、行事などが充実できるよう、市立図書館の機能を活かした支援に努めます。

4 学校等における子どもの読書活動推進

(1) 学校等の取り組み

読書活動が定着するためには、子どもが家庭に次いで生活時間の長い保育所(園)や幼稚園、学校等でも本が身近にある環境づくりを進めることが重要です。

また、平成23年度からの新学習指導要領では、「生きる力」の育成を目指し、基礎的・基本的な知識及び技能の習得や主体的に学習に取り組む態度の養成等に加え、豊かな言語活動が行えるよう、読書活動のより一層の充実も定められております。

そこで、子どもの発達段階に応じた本の紹介や保護者への啓発、地域のボランティア等と協力した読み聞かせやストーリーテリングの実施、子どもが主体的で意欲的に読書活動に取り組むための学校図書館からの積極的な支援、保育所(園)や幼稚園からも本の貸し出し等の具体的な取組を進めます。

施策の方向

保育所(園)や幼稚園における子どもの読書活動の推進

- ・乳幼児期から本の楽しさに出会えるよう、職員やボランティアによる絵本の読み聞かせや紙芝居等の取り組みを促進します。
- ・家庭での読み聞かせなどが、家族のふれあいや子どもの心を育てることなどを積極的に保護者に啓発するとともに、保育所(園)・幼稚園からの絵本などの貸し出しを進め、家庭内での読書活動を支援します。

児童生徒の読書習慣の確立と読書指導の充実

- ・朝読書や読み聞かせ、ストーリーテリング等の実施、学校図書館や市立図書館を活用した学習活動の充実や自主性を育てる委員会活動の活性化を図ります。
- ・良い本の推薦や話題本の紹介コーナーを設けるなど、児童生徒の読書への興味や関心を喚起する工夫を行い、読書活動の充実と読書習慣の確立を図ります。
- ・教職員の読書活動における指導力を向上させるため、県や市教委が主催する研修講座へ職員の参加を進めます。

学校・家庭・地域の連携による読書活動の推進

- ・「1日15分間読書」やボランティアによる読み聞かせなど、家庭や地域の協力を得ながら読書活動を進めます。
- ・様々な障害のある子ども達も豊かな読書活動ができるよう、障害の種類や程度に応じた選書や環境の工夫、視聴覚機器の活用、実践事例の紹介等を通じて読書活動の推進を図ります。

(2) 施設環境の充実と工夫

幼児期からの読書習慣の定着に向けては、子どもの周りに本がある環境づくりを進めることが大切です。そこで、保育所(園)や幼稚園、学校等での図書スペースをより工夫し、子どもが本に親しみやすい環境づくりを進めます。

また、学校図書館が、児童生徒の自発的・主体的な読書活動や学習活動を進める場所となるよう、市立図書館と連携した一層の図書資料の充実を図ります。また、校内において、司書教諭や学校司書(または図書整理員)と担任等との連携をより強化します。

施策の方向

子どもが安心して本に触れる環境づくり

- ・保育所(園)や幼稚園、学校等において、子どもが安心して本にふれる環境づくりの大切さについて啓発します。また、発達段階に応じた選書の工夫が進むよう、ボランティアや市立図書館等との連携を図ります。

学校図書館の図書資料の計画的整備・充実

- ・児童生徒にとって有意義な学校図書館となるよう、図書資料の計画的な整備を図るとともに、必要に応じて市立図書館との連携を進めます。
- ・家庭や地域から不用になった本を寄贈していただく等、近年の環境へ配慮した取り組みを促します。
- ・多様な読書活動の推進と図書環境の整備充実のため、他地域のモデル的な事例を情報収集し、積極的に生かします。

職員の共通理解の促進

- ・子ども達の読書活動を一層進めるため、各職員の役割確認と園校内での協力体制の確立をめざし、共通理解を図る職員研修を充実します。

第3次津山市子ども読書活動推進計画で実行する3つの取り組み

第3次計画で取り組む方策のうち、特徴的な3つの事業と数値目標を掲げます。

「1日15分間読書」

家庭・学校等で読書習慣が身につくように取り組む

【数値目標】

1週間の読書時間(小5)

1時間未満 35.8%(H25) → 10%未満(H30)

「つやまっ子に贈る絵本リスト」

乳幼児の読み聞かせ活動を支援するため、市民に広く呼びかけて、自分が子どもの頃に大好きだった本、今の子どもたちにぜひ読んであげたい本を紹介してもらい、読み聞かせのアドバイスとともにリストにする。今の子どもたちが良書と出会うきっかけに活用する。

「読書推進につながる家庭教育支援」

【基本的生活習慣、ゲームや携帯電話等、各種メディアとのつきあい方を見直し、家庭での読書の時間を確保するよう啓発を行う。また、地域や学校で音読大会を開催したり、親子で参加できる読書イベントの開催を通じて、家族のふれあいや絆を深めながら楽しく読書に親しむ機会とする。

【数値目標】

読み聞かせを「よくしている」保護者(年長)

24.8%(H25) → 30.0%(H30)

第5章 子どもの読書活動推進体制及び広報啓発等

1 協働による子どもの読書活動推進体制

この計画は、アンケート等により明らかとなった津山市の子どもの読書に関する課題を基に、今後5年間の展望を見据え、教育委員会及び、子どもや保護者への施策を推進する関係部署が連携し、策定しました。その中では、今後も関係各課や、市立図書館、保育所（園）、幼稚園、学校、公民館、児童館、市民グループなど広く読書活動を推進していくこととし、特に子育て支援や家庭教育支援にもつながる読書活動の推進を積極的に図ります。

また、保育所（園）や幼稚園、小学校などでは、読書ボランティアによる読み聞かせなどが広く行われており、子ども達を健全に育てるために津山市内で活動している読書グループなどとも積極的に連携を図ります。

施策の方向

- ・教育委員会を中心に、子どもや保護者への支援を進める関係部署などと広く連携し、市立図書館、保育所（園）・幼稚園・学校、公民館、児童館、市民グループなどを含めた広範な推進体制の下で第3次計画の推進に努めます。
- ・ボランティア交流会の開催や各種事業を通じ、個人や民間団体との連携・協力の促進を図ります。
- ・地域全体で子どもの読書活動を推進するため、行政職員、学校関係者、個人や民間団体等と連携・協働し、研修会や音読大会の実施など具体的な施策を展開します。

2 広報啓発等

（1）子どもの読書活動の推進に関する啓発

国が制定した「子どもの読書活動の推進に関する法律」においては、広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、地方公共団体は、その趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならないこととされています。

津山市では、読書活動の意義や重要性について、子どもだけでなく保護者や関係者、そして地域の多くの人々に様々な機会をとらえて啓発するため、「子ども読書の日」や読書週間にちなんだ取り組みを進めるとともに、市立図書館の活動や「子ども読書の日」の行事などを「広報つやま」やホームページなどでも紹介し、積極的に広報し、啓発を図ります。

施策の方向

- ・「広報つやま」やホームページ、ソーシャルメディア等を通じて子どもの読書活動の重要性について啓発を進めるとともに、拠点となる市立図書館が子どもや保護者にとって身近な存在になるよう、図書館行事や読書活動関連行事の広報を積極的に進めます。
- ・保護者が子どもへの読み聞かせをさらに進めることができるように、「つやまっ子に贈る絵本リスト」を作成し、読書啓発を家庭教育支援と併せて進めます。
- ・「子ども読書の日」や「こどもの読書週間」、「読書週間」等の取り組み趣旨を生かし、子どもの読書活動を推進する事業を実施します。
- ・保育所(園)、幼稚園、学校、市立図書館、子どもの読書活動推進に取り組むボランティアや団体などと連携・協働し、広く啓発を進めるとともに、第3次計画実施初年度には、プランを進める啓発事業を集中的に行います。

(2) 各種情報の収集・提供

現在、津山市内には子どもの読書活動に自ら取り組んだり、学校等と連携し読み聞かせなどを行う個人や団体が多数あります。今後、子どもの読書活動を推進するうえでは、これらの個人や団体との連携協働が欠かせない状況です。

そこで、広く学校、市立図書館、公民館、地域など市内各地で読書活動を支援する方の情報収集を積極的に進め、「生涯学習人材バンク」への登録を通じて広く情報提供を行います。

施策の方向

- ・学校、市立図書館、地域で活躍する個人や団体について情報収集を積極的に行い、「生涯学習人材バンク」への登録を通じて広く情報提供を行います。
- ・読書活動に関する関連情報をホームページやソーシャルメディア等を活用しながら情報提供に努めます。

第6章 おわりに

本計画は、第2次計画で判明した問題点を絞り込み、解決するための計画として策定しました。その中では、乳幼児期からの読み聞かせや家庭教育に重点を置きましたが、大人から愛情たっぷりに読み聞かせをしてもらった子どもは、大人になったとき、きっと同じように子どもに愛情を注ぎ、読み聞かせをするでしょう。

そのように読書を通じた、人と人とのふれあいやつながりが、次の世代へと受け継がれ、時代を担う豊かな人間を育てていくことにつながります。

今後も、関係機関や地域の方々の協力を得ながら、子どもが本と仲良くなり、豊かな心と生きる力を育むよう、本計画を進めます。